

1. 日時

2022年10月14日(水) 19:00～21:00

2. 場所

Zoom(Web会議システム)

3. 出席者

(敬称略順不同)

近藤、中村、新谷、浜口、山本、大橋、川島、河村 以上8名

4. 議題

(1)活動方針に沿った研究会活動

5. 議事

(1)活動方針に沿った研究会活動

前回の活動では、経営企画がプロジェクト管理のガイドラインを作成しようとしているので、それを支援する形で、うまくBA要素を取り入れさせよう、という話になっていた。

▷経営企画の検討が進んでないようで、たたき台が出てこない。当初こちらの話に関心があったようだが、最近では反応があまりなく、距離を取られている感じを受ける。そこで無理やり進めず、ひとまず、ガイドライン作成支援から一旦離れ、そもそもやるつもりだった、事業所内のBA教育を進めようと考え、戦略アナリシスを資料化した。事業分野が異なるため、事業部単位で事業戦略を立てられるとの考えに基づく。一旦資料に沿って、中村氏より説明。

▷既存の事業所を前提にBAに基づく戦略を考えてみたが、事業部長が策定した既存の事業方針を否定する話になりかねず、どのように展開するかが悩ましい。

一つのやり方として、既存戦略の問題点を指摘し、対案的な戦略を提示してゆくのではなく、教育担当者とも連携しながら、仮説としてのあるべき姿を策定し、そこから導いた戦略と、既存戦略との対比のなかで、メリットをロジカルに説明し、事業部長に妥当性を感じて貰うことができれば、現状否定にならないため、検討してもらえないのではないか。

▷現状把握は纏められたが、将来像がうまく描けない。

戦略策定ツールがいくつかあるので、数パターン作成して妥当なものを選んではどうか。策定した戦略の中から、more strikableなものを選択すれば良い。まずは求める価値は何か、事業のあるべき姿は何かを明確化し、そこからブレイクダウンすれば良い。

▷資料の中で、品質目標が達成出来ていない、コストを下げられないなど、現状問題点を指摘しているが、問題として共有できていないのか、原因を追求できていないのか。

改善しようという気持ちにならないのは、できていない原因をロジカルに追求できておらず、それをみんなが納得できていないからではないか。

例えば統計的管理手法を用いれば品質管理がうまくゆくとして、採用してコストダウンができていない部署があれば、その実績を示して、理解を得ることができるのではないか。現状採用している部署がなければ、実績を作って少しずつ理解を深めてもらうしかない。

▷ひとまず事業所の教育計画を立案する。教育カリキュラムの中に、超上流の方針管理を入れたいので、管理職を受講させたい。

管理職を引き込むには、前述の品質の問題の本質は何か、できるだけ客観的に示し、その原因が上流の方針管理にあるということを受得してもらう必要がある。作成された資料は良くできているので、個々の項目に具体例を示すことで、共感を得られるようにすれば、納得してもらえるのではないか。

▷BABOKの教育コンテンツをどう作るか、概論では伝わらない。かといって詳細にやれば、ベースがない人には浸透しない。

共感を得るため、実際の案件に当てはめて、研修資料を作るのは良いアイデア。製造業はこれからどうなったらいいのか、将来像を考え、現実とのギャップを明確にしてゆくの  
が良いのではないか。鍵はカスタマバリュー。お客様の価値をどうやって提供し続けてゆくか。

▷研修を実施するには、そろそろ具体的に動き始める必要がある。事業所長に説明が必要だが、どう伝えるかが悩ましい。

批判ではなく事実を述べる。事実に基づき、より良い戦略を提示すれば、興味を持ってもらえるのではないか。ポイントは事業所長の反感を買わずにどう説得するか。詳細な検討によって資料が膨大になっているが、A3一枚にどうまとめるか。

次回には説明を終えているので結果が報告できる。

## 6. 次回予定

### (1) 日程

11月2日(水) 19:00~21:00

### (2) 場所

ZOOM会議室

### (3) 議題

## 活動方針に沿った研究会活動

### 7. 成果物

成果物は適宜、Slackで共有させていただきます。現在Slackに参加していない方で、共有を希望される方は、お申し出ください。

### 8. その他

質問事項や疑問点があれば、Slackの「[#2022年度研究活動](#)」に遠慮なく投稿をお願いします。アイデアや、意見など、思いついたことがあれば、そちらも遠慮なくお願いいたします。

—以上—